

# 兵庫県蜘蛛類—氷上郡の巻 I

西 田 敏 昭

爾来兵庫県の蜘蛛を調査した人はなかつたが、筆者は昭和 26 年頃より採集調査した結果現在約 170 種の蜘蛛が確認された。筆者は兵庫県を地方別に区分し、採集結果のまとまつた地方から報告し、最後に一括して、兵庫県産蜘蛛類としてまとめあげたいと願っている。氷上郡は粟ヶ峰を筆頭に笹ヶ峰、妙高山などがあり、中でも青垣町旧神楽村稻土は、採集には絶好の場所である。特筆すべき採集品は全国でもめずらしい *Arachnura logio* YAGINUMA (キシロオヒキグモ), *Cyclosa vallata* KEYSERLING (マルゴミグモ) 等があげられる。この採集調査にあつて、協力をたまわつた柏高教員、山本義丸氏、採集品の同定を賜つた八木沼建夫氏に厚く感謝の意を表したい。

## 目 録

本郡は兵庫県氷上郡の蜘蛛 (1956. 11. 2) としてパンフレットを一部の人に配付した。所が相当のミスプリントがあり又それ以後属の変更等があつたので訂正願う。種名の頭番号は筆者保存標本番号。蜘蛛は幼成と成体とで相当色彩、形状を異にする関係と、幼生である為同定不可能の場合の sp. と科のみわかつていて属も種も覚らない時の Gen. et. sp. indet. はこのリストに掲げない事にする。

- a. **ATYPIDAE** チグモ科
7. *Atypus Karschi* DONITZ チグモ
- b. **SEGESTRIIDAE** エンマグモ科
113. *Ariadna lateralis* (KARSCHE) ミヤグモ
- c. **DICTYNIDAE** ハグモ科
54. *Dictyna felis* BOESENBERG et STRAND  
ネコハグモ BOESENBERG<sub>2</sub> et STRAND は以後 B. et S. とする。
- d. **ULOBORIDAE** ウズグモ科
61. *Hyptiotes montanus* KISHIDA オオギグモこの種は日陰に造網し、しかも三角網を張るので有名である、全眼入上に位置背甲はカブト虫の頭部に似る。
78. *Uloborus sybotides* B. et S.  
カタハリウズグモ
85. *Uloborus varians* (B. et S.)  
オオウズグモ(幼)
98. *Uloborus dubius* B. et S. コウズグモ  
小松榮氏はヤシロウズグモとされている。

## e. SCYTODIDAE ヤマシログモ科

48. *Scytodes thoracica* LATREILLE  
ユカタヤマシログモ  
このクモは口から糸を吐いて外敵をおそうめずらしいクモ。高島、関口氏の口から糸を吐く蜘蛛という論文に大顎基節の丁度先端に当る所が中央で割られて、一對の孔となる。糸はその所から射出されるのであろう……とある。この糸が吐かれた時には目に見えないが、相手の動物が動くに従つて空気にふれて綱をかぶせた様に白く見えて来る。人家の押入れ等に見られる普通種。

## f. THERIDIIDAE ヒメグモ科

94. *Theridion japonicum* B. et S. ヒメグモ
4. *Theridion tepidarium* C. L. KOCH  
オホヒメグモ
97. *Conopistha fissifrons* o.p. AMBRIDGE  
チリイソウロウグモ
0. *Conopistha bonadea* (KARSCO)  
シロカネイソウロウグモ  
本種の採集品不明。
108. *Conopistha miniaceus* (DOLESCHALL)  
アカイソウロウグモ
111. *Episinus affinis* B. et S. ヒシガタグモ
81. *Enoplognatha follicum* D. et S.  
コノハヒメグモ  
D. et S.=DÖENITZ et STRAND の略
30. *Ariamnes cylindrogaster* SIMON オナガグモ  
このクモというよりも松葉か昆虫の幼生と全く良く似ている。緑色の弱々しい尾(腹部)が相当長い。普通種。
43. *Teutana trausversifoveata* B. et S.  
カレハヒメグモ  
*Theridion tepidarium* と良く似ているが前種は腹部は葉状斑を有す。石トウロウ、カキ根附近に住む。
27. *Asagena aloilunata* SAITO  
ハンゲツオスナキグモ  
この種名のハンゲツトは腹部背面前端上に三ヶ月型黄斑有する所から呼ばれたのだろう。他は黒色。
101. *Theridiidae* gen et sp. indet ナリヒラグモ

腹部ハート形にて中央両側と後端に黒斑紋有す。他は赤色の強い黄色。

g. LINYPHIIDAE サラグモ科

69. *Linyphia yunohamensis* B. et S.  
ユノハマサラグモ  
サラグモという名はこの種の蜘蛛が Snarer で血網を張る所から呼ばれる。

92. *Linyphia longipedella* B. et S.  
アシナガサラグモ  
前種に全く似る、只この種は腹部下面に黒色に六コの赤褐色斑有し、歩脚にも櫛毛有す。

99. *Linyphia albolimbata* KARSON  
ヘリジロサラグモ

114. *Linyphia exornata* L. KOCH シロサラグモ  
この種は北海道では普通の様であるが本州では珍しい。

41. *Labulla contortipes* (KARSON) アシヨレグモ  
背甲は緑黄色にて中央部に黄色眼鏡状斑有すのが特徴。

h. (MICRYPHANTIDAE) コサラグモ科

110. *Oedothorax insecticeps* B. et S.  
セスジアカムラネグモ

i. PHORCIDAE ユウレイグモ科

1. *Pholcus phalangioides* FUSSERIN  
イエユウレイグモ  
灰日色地の弱々しいグモで歩脚は細く特に長い、屋内の暗い所を好む、人間が蜘蛛に近づくとき盛に示威運動をやる。

65. *Pholcus crypticolens* B. et S. ユウレイグモ  
前種と全く似る。この種は野外に住む歩脚の黒輪斑が 8~10 ケ有す。

j. UROCTEIDAE ヒラタグモ科

6. *Uroctea compactilis* L. KOCH ヒラタグモ  
この科にはこの一属一種のみ。人家の壁上、板べいに扁平な六角形状の住居を作り細糸を5~6対外方に出している。夜出て昆虫食す。

k. ARGIOPIDAE コガネグモ科

64. *Zilla Sagana* (B. et S.) サガオニグモ  
注 *Zilla* 属は *Scape* が柔かい。 *Araneus* も柔かい。 *Neoscona* はかたい。

18. *Zilla sachalinensis* (SAITO) カラフトオニグモ  
本種は樺太産の一頭の標本により *Argiope* の新種として発表されたものだがこれは正しくないとされ *Zilla* に転属されたもの。形、色彩はさまざまである。

0. *Zilla flavomaculata* YAGINUMA  
キマダラオニグモ

柏原崇高小学校の吉見一郎氏採集せられる。近頃氏はこの標本を紛失されたい、惜しいものである。

57. *Araneus angulatus* CLEOK ヤマオニグモ

47. *Araneus sia* STRAND ズグロオニグモ

44. *Araneus cucurbitinus* L. KOCH ハナオニグモ

10. *Araneus ventricosus* (L. KOCH) オニグモ  
夏人家附近で、体全体をノツソリ、ノツソリ動かして円網を張っているのは良く見かける。

75. *Araneus ejusmodi* B. et S. ヌサオニグモ  
爾来 *Lithyphantes* (?) *dubius* D. et S. *sp. ad. int.* として属名に? が附いたのを取つて、ヒメグモ科に籍が置かれてこの学名が使用されていた。所が眼、九網を張る所からコガネグモ科に入る事は明らかである。学名は *Araneus ejusmodi* B. et S. を用う。ヌサオニグモの別名ヌサグモ、ヌサガタオニグモ、ヌサノオニグモ、  
Synonyms: *Lithyphantes dubius* B. et S. *Araneus Lithyphantiformis* Kishida: *Nusa dubia* (D. et S.): *Araneus dubius* (D. et S.)

90. *Araneus ishizawai* KISHIDA  
イシサワオニグモ  
最初石沢氏が採集せられたのを岸田氏が新種として発表された。

80. *Araneus pentagrammicus* (KARSON)  
アオオニグモ

77. *Araneus pseudocentroides* B. et S.  
トガリオニグモ  
腹部三角形状、後端細くとがる。九味強し、歩脚は赤褐色。

104. *Menosira ornata* KISHIDA キンヨウグモ

56. *Neoscona opima* (L. KOCH)  
コゲチャオニグモ  
暗褐色~褐色迄又有斑~無斑と色彩変異極めて多い。腹部背面に 4~5 対の葉状斑のあるものすらある。

87. *Neoscona scylloides* (B. et S.)  
サツマノミダマシ  
次の *mellottei* と同色彩、同形状、普通これ迄は混同されていた様である。

A. 腹部背面のみならず、下面両側迄緑色で背面と下面の間に黄色の線がある……………A'

B. 腹部背面のみ緑色、下面両側は黒褐色……………B'

A'. *Scape* に黒斑紋なし……………A''

B'. *Scape* に黒斑紋有す……………B''

- A". 腹部下面中央部に従向の細い褐色斑紋有す……………Scylloides
- B". 腹部下面は褐色……………mellotteei
37. *Neoscona mellotteei* (SIMON)  
ワキグロサツマノミダマシ
35. *Neoscona nautica* (L. KOCH) イエオニグモ
107. *Aaaneus Semilunaris* (KARSCH)  
マルヅメオニグモ  
筆者は兵庫県氷上郡の蜘蛛、1956. 11. 2 (立命大生研) p. 2 に *Araneus* sp. とし、ヒカミオニグモと仮称していたもの。B. et S. の *Japanische spinnen*. 大日本蜘蛛類図説、小松、の中の図は♂で♀がない。故にこれ迄あまりこの名に同定されていない。
76. *Neoscona scylla* (KARSCH) ヤマシロオニグモ
72. *Neoscona scylla* var. *nigro-maculata*  
YAGINUMA アトグロヤマシロオニグモ  
前種 *scylla* の腹部背面、中央部に腹部巾の  $\frac{3}{8}$  程度のヒョウタン型、凸型黒褐色斑有す。
71. *Neoscona scylla* (KARSCH)  
ヤマシロオニグモ変種。  
76 の *scylla* の腹部背面中央部に凸型白色斑紋有す。筆者は *scylla* と別種と思うが八木沼氏は個体変異であると言われた。普通森林に見られる蜘蛛、夕方活動す。
74. *Neoscona fuscocolorata* B. et S.  
ヤミイロオニグモ  
従来 *N. subpullata* の黒褐色型が誤つて本種に同定せられたことがあるようだが本種の *epigynum* の Scape は長<巾、腹部は巾>長 *epigynum* と蜘蛛との間に大きい黄色斑がる。
55. *Mangora herbeoides* (B. et S.)  
ゴマジロオニグモ  
従来 *Araneus herbeoides* とされていたものが今の所日本産の唯一の *Mangora* である、八木沼氏は *Araneus* から *Mangora* に転属された。Acta arachnologica Vol. XIU No. I Jan. 1st, 1955 p. 15. 本種はアルコール浸漬標本では黄色になるので住々ドヨウオニグモやトホシドヨウグモ等と間違えられることがあるから注意を要する。
11. *Argiope amoena* L. KOCH コガネグモ  
子供のセミ取に用うる網はこの種のもの、夏の代表的クモ。
49. *Argiope minuta* KARSCH コガタコガネグモ
82. *Argiope aetherea* WALCK  
チノウガタコガネグモ

23. *Argiope bruennedri* SCOPORI ナガコガネグモ
58. *Acusila cocelinaeus* SIMON ハツリグモ
25. *Leucauge sabblanda* B. et S. コシロカネグモ  
この種は次の *magnifica* と間違えられるから注意要す。この種の *epigynum* は良くキチン化した中央開口部が両側平行した縦長である。
53. *Leucauge magnifica* YAGINUMA  
オオシロカネグモ  
本種に近似したもので *Leucauge ventrescens* Chamberlim, *L. blauda* (L. KOCH) 等がありしばしば混同される、前者は *epigynum* の中隔の後端の巾が広い点で明瞭に区別出来、後者とは肩の隆起、腹部下面の鱗状斑のない点より区別出来る。
83. *Leucauge subgemea* B. et S.  
ヤマシロカネグモ  
他の *Leucauge* とは様子を異にし *epigynum* は良くキチン化した緑でかこまれ開口部長く上部の巾広い。
17. *Meta yunohamensis* B. et S.  
ユノハマドヨウグモ  
別名タニガハドヨウグモ
32. *Tetragnatha proedonia* L. KOCH  
アシナガグモ
102. *Tetragnatha squaniata* KARSCH  
ウロコアシナガグモ
2. *Nephila clauata* KOCH シヨロウグモ
3. *Gasteracantha kukrii* C. L. KOCH トゲグモ  
この種は最初谷口行弘氏採集
5. *Cyclosa octotuberculata* KARSCH ゴミグモ
84. *Cyclosa monticola* B. et S. ミツテゴミグモ
73. *Cyclosa sedecalata* KARSCH ヨツテゴミグモ
79. *Cyclosa insulana* (COSTA) シマゴミグモ
100. *Cyclosa argenteo-alba* B. et S.  
ギンメツキゴミグモ
93. *Cyclosa atrata* B. et S. カラスゴミグモ
0. *Cyclosa vallata* KEYSERLING マルゴミグモ
50. *Cyrtarachne bufo* B. et S. トリノフンダマシ
38. *Larinia argiopiformis* B. et S.  
コガネグモダマシ
- I. ARGYRONETIDAE ミズグモ科
22. *Cybaeus nipponica* (UYEMURA)  
カチドキナミハグモ  
本種は *Bansaia nipponica* という学名で和名がカチドキグモであつた所がこの *Bansaia* は誤りで *Cybaeus* と転属した。従つて和名もカチドキナミハグモとする。

- m. PISAURIDAE キシダグモ科
86. Pisaura lama B. et S. アズマキシダグモ
90. Pisaura clarivitta B. et S.  
タテスジキシダグモ  
本種紛失する。
103. Dolomedes raptor B. et S. ハシリグモ
16. Dolomedes sulfureus B. et S.  
ユオウイロハシリグモ  
hunter で caripeta japonica B. et S. (カヤク  
グリグモ) との区別困難だが、背甲の斑紋は二  
線を成さず、胞板にもU字状斑紋を有しない点  
で区別出来る。
34. Dolomedes angustivirgatus KISHIDA

53. Dolomedes pallitaris D. et S.  
スジボソハシリグモ
68. Dolomedes saganus B. et S.  
スジブトハシリグモ
26. Caripeta japonica B. et S. カリウドグモ  
n. LYCOSIDAE ドクグモ科
24. Lycosa t-insignita B. et S. ウズキドクグモ  
腹部背面前新に八字状斑紋有す。
109. Pirata subpiratica B. et S.  
キバラカイゾクドクグモ  
カイゾクドクグモの特徴は背甲亜側従線斑あり  
その内側に又従線斑を有す°

## 提 案 植物の分類とラベルについて

古 川 博 二

この頃どこの学校へ行っても、校庭の植物にラベル  
がつけてある。公園や遊歩地の植物にも名前がつけて  
あって、まことに結構なことと思うのである。しかし、  
多くは科名と種名とが併記されている。学者はと  
にかくとして、児童、生徒や一般人に対して科名とい  
うものが、いかなる役割をしているであろうか。たゞ  
××科の×××という植物だな、と、納得するだけ  
で、科がどんなものかについては分からないであろう  
し、分かつてもしないし、また分からないからとい  
って何の痛痒も感じないのである。

科の上には目があり、綱や門も控えている。科の下  
には属があって続いて種となっている。それなのにな  
ぜ科名だけがあんなに優遇されているのであろうか。  
もっと大きなグループに絞ることは出来ないだろう  
か。あるいはもっと大まかな分け方を考えることは出  
来ないものかと思うのである。

植物の名をおぼえることは大切であるけれども、植  
物そのものの内容を知ることがより大切である。植物  
の名とともにその形態、生態を観察し考察する態度こ  
そ肝心である。

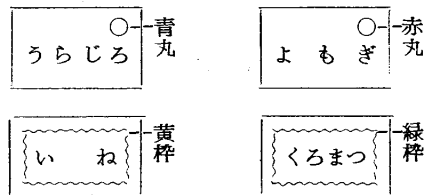
そこで科名などというものは暫らく学者にお返しし  
することにして、私の提案をきいていただきたい。

1. 植物につけるラベルには種名だけを書き科名は  
書かない。たゞし大学の植物園のように学者や研究者  
を対象にもつ所はこの限りではない。

2. 全植物を4グループに分ける。すなわちシダ植  
物、裸子植物、被子植物とし、被子植物をさらに双子  
葉類と単子葉類とする。

3. これらの植物群を色をもつて表わす。色はすな  
わち児童生徒に親しみのある赤、黄、緑、青をもつて  
する。次の通り、シダ植物(青)、裸子植物(緑)、  
双子葉類(赤)、単子葉類(黄)のようにして属する  
グループを明きらかにしようというのである。

4. それには、植物につけるラベルの右肩に、それ  
ぞれの色の○印をつけるか、またはラベルに色枠をつ  
ける。下図の通り



こうして極めて大まかな分類によって、植物を分け  
ることを知り、それを基盤として、植物の研究がすす  
められるようにしよう、というのである。

これは兵庫県の学校は勿論、公園も同一歩調をも  
って実施し、ひいては他府県にも呼び掛け、全国に及ぼ  
そうというのである。

いかがでしょうか、諸賢の御批判と御叱正を賜わり  
たい。

なお、始めに双子葉類を合弁花類と離弁花類に分  
け、全体を5群とすることを考えてみたが、この2群  
は花部以外の形態的の差がないので徒らに群を増すだ  
けであると考え4群にしたのである。